国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

○かくてのおがぬ
三保が家も日ごと賀さ増りて。せんかさあげありさだりり
三人のをおめ
のまそろと成て。屋根を破き柱も傾き。壁も崩れて庭よい草
たらく生ひまぎりて。さるぐ秋のけしきとあきてうち荒も
宿報のつくおそ事よと親子さ
のをおさをりかくよめつつひあ
入りてお主は賢せよとてさ出さを見さまび。さまさま里良

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

子奪ひ去て羽衣かき着ざれば。驚きていふ。
阿つま。今事のさまをつぶさと語りね。母羽衣を手に取りおし
のごひて云なく。天人とやさしく身浄くあく塵垢を止めず。
身より光明ありて常より色よろこばしく。
事あり〳〵と御経よみ〳〵有りと。聖の住坊とその日暮し。
汁羽衣かく我めと母のごとまるを。今より貧しきを轉じて
さいわひを得ざき瑞あるべし。白良も久もとりぐおゝ
のごびきて。あゝうれしき布ま包とて。皆よをさあ清きおみさるる
置てときのもひあぐさをあちこぐく拝さそふかあまさ立ると

酒餅



藏どもの中ひとつ書ぐくなかゝ
よりくあまさ集て汁藏をおぢちとりて磯あどをも車あ
積てのちそのあ。ちまさつけても那世くて母ら涙あぐらそのおち
とさる藏の跡ま集てさめぐと泣て父君のさぞろはをを
用ひて造りのとおませのうくるちを
ぬるかあゝさよとのつぐ。白良も母見まゝつ。ゆくの母涙
をぞ拭ひる。汁磯辺とりしる跡あ穴のあまさくあまそあまゞ。
人陪らぐ発うんとて白良とぐうく鍬とりてかゝくの土を
かさよせて汁完全理めんとてあまあゝかあゝ稚ちさ思そぐを

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

石を掘あて〳〵鍬のさきよりかち出ぬ何あるらんとて彼掘
見るに。ひら〳〵めある。石あり。何の料ぞかゝる物を土の下に埋め
置つるふしぎと思ひて土をかきよけて見るに。基盤の形せる
石あり。母迚よりとりて。あな思ひがけなや。こは文君のそら〳〵頃
基盤のことを告給ひたるが。唐国人の石基盤とは
のふをうつして石工よりひつ伏て作らせたるとぞ。河内死〳〵
のをざる一年だうり。さきよりも見えざり〳〵。物をくなまう
せざる。家は埋を置のみふこそふしぎ白良父のはかりみを
土中よりおくりきたるぞとて。久を呼て此石基盤をとり

のけて見るに。下は大きなる窪盤のうら〳〵母。文字見
白玉だ土をとりてよみとるに。文君の名をまうして遺金
一萬両とあり〳〵。竈の中ふ手をやりてさぐるにがおとぐく
金あり。おまりの事よおきに母も白良もあきれ坐して。
目を見あはせ久をあげてあきれ
あとにかへりもそうつせ
母も白良も手の舞足の踏所をおぼえず。此金とり出て。
かそうぐ持運びて家よをさめつ。さて破ぬる家を修理し。
め〳〵つうれあど再びかへて昔の業をいとなむ。久ひさ

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

力を生して美かしこくあるまひぞ。
日ごろのやまゐは榮えぐるとまうしく三保の長者。あら
かじめをうして我家施しを好めば。ゆくさを君かあらざ賀く
ありゆくしとて妻子ふぶよ諾らひてかく金をだ埋めおき
ぐるとぞ白良ぢぐるを。ちなみの賜物あがらかの羽衣を
とりかへせ一日ふあらうして。汁金掘出せしをありくぞ。
天人の加護しうるあうとていよく羽衣をだ。たふとくて大
切よ納めをぐり。扨み黒良が家ゆ舞算をひて舞
踊りぐる物ぞる日ぐをて後。ぢめて正氣つまて。ぢれぐるを



こゑぢる。雲井ぶめて来つる算をぐれぐるとく。雲
井を尋々ぢて。このづちゆきぐん。新ゐ見えざ。娘乃ふ李ゐ
と。旨一ぢ。家ゆぐぐく事あり。みこととて。
羽衣をとり生て舞ぐる事を。茅の中
と尋ね当どる。羽衣のゆくく見えざ。大ゐ悔々ぢ。せんさぐ
ありぐぢ。さて。ゆみね。娘小松ぢりも聘物の行方あくく成ぐ。
事ぐくのそざりぐるを見て。心のうちよろこびぐぐ。志をろ
長者ゆ茅をぐるぢ地して家ゆ引ぐりぐるぐ。さて。ぢむて
あくねぢ。みゐ日をえぐらく。聘物おぐり遣さぐことぞかま

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

あしらひそる。

## ○初花手をるなうぶち

さて月比をつく霜月よりぬ廿月へ三種の明神の店まつり。

とて。国のうち。もさりて。甚まうけをあそ。祭の日そ。おとさそ。

糸詰めん人志ぞく。もきうりて。錐をしそ。黒良廿日右服うるしく。出立て。店社よ詣て。ゐらんとさる。おうそ。向ひより。

貴人と見えて。無拘よ供人あまそ付そひて。廿店社をさして。

未まり。黒良廿無拘の内を見そ。十五ちと見る娘の。顔ばせよのつねあらず美しきそ。窓より顔を出してをり。思ひあまや





そ。を見るやうもあらざ。黒良膳心もうせて。あそ。美人かな。

人を誘てもそ。妻ともそ。なそ。と思ひて。さみあくるもど。

無拘ん店社のかへ行るぬ。通よひきて。侍男の供もるあり。

おそ。を国の守の店うちの者ぬく。黒良が。まりくる男あそ。呼

とめて。志ぞ。物うちのひて。無拘よ。あるもるそ。何人ぞ。と。

被問。答て。あそ。を北の方の店めの。娘あそ。北の方の。

おくのそへ。みのひて。常ふかへつくもあさざ。召つひまり。

なふそ北の方の店かをりよ。かの娘明神まあるへ。ありやを

のふ。黒良うちつけよ。のふ。ぶつき。あるねぢ。侍よむらひて。



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

おのまひそうみかゝらひやづき事あり近きあどまつ家ゟ
来りのひちんとのつぐ侍らふづきて別て行ぬ黒良ゟ家ゟ
帰りてもかの娘の事ゟろはかりて石生がくくよかく思ひ
煩ひてわそるよ二日だうりをるてかの侍来りけりの事悪
菴をとて、ゟろねぢけくゝえせ菊ありうり黒良ゟ人ちきよ
のまて彼のゟの娘ゟ生ゟ媒くゝさくとのひて金十両を包て
そくゝ夕生ごで西菴太うちゟとて此事難かくざまづみを
ありのまゝとのつぐかねてゟくゝめ玉はゝ多くの事ありの
あざ。夏ゟくむらひまくんとのひとく。菴をよきさ
金のはるよ掛まてつゝ。ゟくとそ名とてさみぐまくぬ追従を
のひて別生て帰りみけめのゝとの娘ゟ常ゟ北のそゟの
かくらくゟ生ゟ娘のやうよ。ゟつきさかづきのハゟ悪菴ちあど
そ下ざ多の者ありまゟ前ゟじふ生ゟ事かちあてまくて国の
守のおきてまひくく奥ざ多い男あどみぶりよ入ゟ事をゐる
さざ内ゟのつぐて厳重ありまだ此ゟ夜ゟそまてごきやうもあ
ゟ黒良ゟ方よりそ日くゝおんをおとて、のうみくと責生だ悪
菴をまそびて。おのがおくかよゟ傾城よ逢ゟかせて黒良ゟ
のとふゟち行ゟく見まゟ生だ黒良手をひくそよまて悪菴太



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

を拝して。神無月あまねく出雲の神をさそひ
いこひて。みこと金銀あまた送り出さ
と思ひて。おとよくこのひて。おのが家へ預り
便りありとて。悪縁太がめとく参を
ありて。いつかかねてかさしひおそせ一事をたばりの
ふうん見ぬわざ忍び入りてまし。と
人やとうめん。その心一ぐ書てあり。参太が通りぶと
よ。よきひまあ一だ。さ一せんとのことあるとのよく心
の一ぐまて日一ま参ちが便りをぞ待あ一りける。実よ志ちが

家へさそひ聘物を贈りつゝそ一ける日思ふ事ありと
事とそのまざりなまでに計策を媒妁する即佛尼よあつく。
聘物の金銀続あど残田がめとく。おりて婚姻の日を契りて
待るう。計即佛尼を国の守のめとくも志く一くち入て。
北方もあつく帰依しまする事も悪参ちよのくまうまて居りそれ
だ。ある日尼がめとく行きて紹二もの
そ一ざ一の布施あり。とのへだ。例の歌ふさき尼あまだ日比
ひろげて愼びく。とり収めう悪参を参ひきく。あて活々と
彼めとの娘よ。おの生心をかけてあまでに。あひかさらふづき

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

よさそうあり。時〳〵とゐりの夜居のはゝあ
ゐのうなづいてそなのかけがねをさぐつて戒をこち引て。
娘が部屋へあちへこつのそりちん
と。事かちやりちやぐ金百両
を布施よあつらへんとのつだ尼いよ
〳〵そはのとまをかりちんかの娘の部屋を持仏のかたら
ありてだ。おの主一人ぶよ心を消て物せざ忍び入りのちん
あるん。おくとのふよ。悪者を大よ怪びてのよくかたひ
合せて。別主て頂りぬさて〳〵其日とくあ
ありて。時よせんと思ひてるが。例の公ひがを抜き
み思ひかつて。尼がのくる毎りあらうぞ。娘が部屋へ忍び入らん
よ。さるふげさる人もあらじ。さらべ。黒良ゐを出らせざ。主
まづ忍び入りて。一夜あらつづ。さて
せん事遅らじ。初花へ先おの主
さりて。日のくらくを待ちり其夜子ろる
さるを合図と定めて。細条をつたれ
常へつよくとぎしける戸も。おさまと
あけぐみ戸をさしかためあり。主もおさまやで
明ぬ。寶鐸の音さる方をたどりて。障子を明ぎだ尼持仏よ



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

むりて。経よみてをりてるぐ〳〵ち出て。声ひきく〳〵あ〳〵て。隣あ
部屋を指さして教ふのふまよ。隣の部屋へ入〳〵んとまろみ。
戸ざし〳〵て明ざる。夫が方へ来て戸の明ざるよ〳〵をしく
ぞ。尼ども来て。娘が部屋の戸をわと〳〵とたゝきく。あの戸
あけの入〳〵まをつき事ありといふ。尼君ある。夜あろふ。あぞ人
おとろふとの声のとねむりげあるまで。娘が声と少あ〳〵。
さて立て。戸を明ろさ白あまぞ。尼ものこの持仏の方へ入りぬ。
悪者六戸を明るより。とく内よ入まさ。物ろ
のろめも見えず。戸を明つる娘ぶの。ぐまを作きて。顔おつゝそく。

口のあ〳〵をかいねぶさぞつきのけて。何事さるぞとの入声
老ろる男の声あり。者をおめふよ。たゞひと歩んとまるを
両手をさ〳〵のべて。者ぞ頸をおさへて。ぬさく〳〵あを入つゝさ。
をろ〳〵とめくまん〳〵とのびとりて走り来つ。悪者六を
捕へつるぞ。めの〳〵が夫あく叫娘ぶ父あり。
雪よりぬ娘ぶ部屋よ泊りあ〳〵るを尼ども見るよぶよまろざれぞ。
例のぶ〳〵娘一人寝〳〵るよと思ひて。ぐまを作きて。
人〳〵をぶて悪者をかゝめて。守ぶ〳〵まん〳〵よ引き入く。紀伊国
さるよ者を今ぬ遣さん方あろさ。尼をかゝらひて。忍び



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

入けるよし。をやさのう丹黒良が事をだつくみて
いちざりそり尼什やうさを竿よりの外の方へ逃出そうが。
そをさへ道も見へざ誤て庭の池よさづり落てぞ死る。守番をだ
まづ嶽よりのさそくさづう丹拷問さだ。尼をあるまゝ媒して
人をとちびきこる事。ふくさをさだ。死しはをだ。せんかさあ
死骸へ親族のりのつそさつうをさだ。尼が親族
夜中をめさをさて。死骸を曳よりのさそくさ尼が庵へ舁取りそる
比。夜をるのぐと明ぬさそくおめそをあるをとあく
の事。とりのとをさて。日暮ちだ。野辺よ送うんやそくその



おくくちだ。おくうそう。

## ○尼法師の娘の君

残田が家あてをかくる事をおくうだ。
そふを娘小松をおとりつうさをだつて其用意おくうそうが。
小松がうけひうさうを志をだ。母斯きて娘よりつうをおおとを。
幼き時自良よりべき約束しけをだ今さうみへやうんそ。
おおとう心あもそをおさ。又三保の家へても。義もくちがさそを
だう文君を我いさめて是までの定をおくくうあて。およそ三保の
家へおおとをおとりつうをさをありとりべだ娘を傷ありとを



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

まつ。ぐで、昼より用意して。ま〳〵をまち。さて雨時るる比。
小松を曳よのせて男どもあまた。
あつまりおく。かゝる時を大きある松をひく〳〵とも。あく。
つゝねてもけぢ。昼みもおとろざ。道のとあるく照てそ。
あつるよ宿を出て十町だより行ぬとおのふ比俄に時雨ふり
まつて。とめ〳〵つゝね〳〵松どゝ水。一時よきそあ雨を車軸を
流さだり。降まさりて凄ぐづうもあらねど。皆〳〵森の
中へ入りて雨のさぐるをまつ。まさとよみふ。物の
いろめも見えざ。家よ帰りて火を取りて来んとのど供人



ゐても。家よ帰らんものと事ぞとの
をるど。天まるの人おとりて。何物をうかづき。走りぬ。
森の中へ走りぬ。さてく。おそろ
ゐく。想あんとのふ。〳〵とも。何りのあるうちもと。
中よ。一人が云るをあやまりあき事をちつるふ。森
を昔より。化物出て人をあやまちをりとのひつゝく。
よかりぬ。入りる事よとのふ。
人あまた〳〵。さありさまでかく
大きある風窓をうがちだり吹事ぞ。あやとの



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

おど丹頭のうくはらうづちの落りかゝるだうりの音〳〵て車輪
のおとさひゝりのごとく。山森の中に。絃歌聒噪あり。あやしく例
ならぬ化物ありと出来〳〵見てみなお耳をおし立目をふさぎて
足を空なりて逃出て三町ばかり走りてふりかへりて
見るに光り物をたゞしく森の中に落ると見えて見さめをも
やうの事ふさるゝ迄も夢の内ある人をのふ成りけらん
行て見んとのふもありらやく
絵さへあん。命をかふる寶もあり
その中ふ剛氣ある者ありて
送り来て夢をさのまゝふ捨置てよ生〳〵敷てのおぢさま
あー。とふかく丹。今一ど森ふ入りて夢を取りく来んと
のごとみなくおゝ〳〵ありとて。各徒のさゝげてふく
な変りて。走りありておそろ〳〵
伺ひそろ車輪の光りを見そめて
入りあー。をさくふ真ふ夢をめとのまゝみくあり戸を
おし。あけてさぐり見るに。狼ふ
最前のおそろ〳〵かりしよけどく
のごと丹せんとらんぞ。さりとて家ふ
天の羽衣 二ノ下
十五
十四

あるもおさ志左の家におらりて。かく
ごとて轡をかづきて。めくのさま
めくくしのそく道あて志左ど家の
とのくて来あひぬ。うちつさて。志左
井かぐり替てくへあまくつどひて待つけあくり中門よ轡を
入くさ志左の長者歩く。轡をむくく。單ぜ多く。帰せく
のりぬ奥の間。とのくびあまくさ
ちくさぶき長者ど
笑毋盃を筆よまそく。さみくの者どもあくくよろこば
くうちそあくり。拝のまくり轡をおろせど女どもも。



よりてまづ戸をひきあけく。會釈くらざことまくの
あくくの娘のくもせざ。轡よくも出さ。あるあくくく。
とのくび取りく。轡の内をてくくく見出さだくつぶくる即くり
くまり。婿の君のあうあ見そぎ。おのやくみて。轡の内つ手をのまてく引出せざ。おおあくあくく。
男ともよくぬ老くる尼の死骸あり。つとのぞくみおくまく
のきて。ふくくみくり。汁死骸あよ落くる者と見てくさ。
あくまて月をひくさ缶を出くをとらさる。あそろくさらをん
かさあく長者ど。耳をひくくの箱みくくの立さてぐを

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

さとうざ。何事ぞ。嫁の君を。とくく出して。座なつかせてよとらひ
さる。立てまつり。叶羽目さくおろく。
さみちるくをおしひらけて。尼が死骸を見て。嫁の君おどさは
恥て。うつぶしのさとひさる。手をとりてひきくうち
かのおそろしげなる顔の尼が死骸とめくるまかぐ。
くるまの。翁が肩よくくひきくづきさねみ見も。弱もたゞめて。
おくぬりのおくくまりて。手を引き取りて走りおく尼が
死骸よろくくとして。働をかくうる物。節ある燈臺を。
かくうく。膜を突破りてうち。水膜の中より。わど走りて。あり



ふくの目口へ。飛ちりく。その負きず事思ふづくざて。長者
おちぐ。近づきよりて。叶死骸を見。婚姻の媒せる即
佛尼ある。生ぞのよくおろえさ。のろ
かくとて。送り来る者どもを呼て。
君と傷り。おくね。五人をめち来
磯田うちくひあるやいふと。刀よ手をかけて。せくめらつだ。
送りの者ども。口くは若くくるて。家を出る時。あたむあをば。
たくろみのり物。めさせくゆ。おろうみ途中。おめさざる雨り
逢ひて。おぢく森の中ふ入りて。降ぎれるど。あやしき老翁の

落ちるさま。おそるおそる。逃げ去りて。さて。法師ふたたび森に入りて。書を開きてをる。姫の君をば。化物の見えぬまで。取りてゐるうちに。色を土のごとくかへて。ふるへ。かくるゝ。人あまた中門に入来たるを。即佛尼が親猴の者どもあり。おのおの野道遠方より。道みち雨ふりて。おびたゞしく。志ざしの森の中に入てあるを見。なのめならず驚きて。逃去りて。あるじもなき。尼ども。死骸を入置たる。楽物見えぬ。かくらんよりぬうるさき。楽物をとりなどするうち。

おぎえ。ふるへ。さがしめて。見まぐるをありて。これ。
汁。書たる男どもを見ざるみ。おく布の着衣着て。額よこ。
ある紙の烏帽子を。ななめにかぶりて。おく。ちさき。
まゆ。手おとる。幡蓋金鼓鐃鈸あり。持て見るぞ。
志ざし生ぜもちゐたり。うとうとしく。死骸。
のぞく。浄衣着たる男。尼が死骸を見て。声をあげて。腹
をぞ。かう突破りてあるとぞ。
墓をあばきて。斛のつきたるぞとの
かく。斛つきたる死骸そうもあらばこそ。



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

この一ぐん叶死骸の。蘇生しるを。汲ら怪こと
これ　　この　　を
我ら叶尼が甥あり。生涯極楽往生
　　　

志をの長者娘のこゝを
あけて見きた尼の双髻
ゐるをみて驚くふ

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

おもひ沈みてうち臥しぬ。新らしき衣ひとかさねあるを姫のために設置けり。紅の衣の袖の長きをうち振りて。さめざめと死人のようちきせてみ帯をもひとつにむすびあはせて。下ようつぶしにして。猶姫の帯を出してもひとつにむすびあはせて。夢よかきの

て。ふうさを望けれど。悪者ども。黒良が。はうちへつゐ参よ。黒良
ありて。その丈夫。市館へ。思ひ入〳〵。
なりとも。悪者ども。ふうあそせて。盗さど〳〵たゝみ〳〵ん。
と。騒立ける。郎党の入りまふ事。ふうかゝるよ
隠れて。伺ふ。後田夫婦。黒良。縄よ〳〵ら生て。ひうきて
行きぬ。おそろ〳〵ちかづく。引張
足うより。さて〳〵よか〳〵ぬ縁を結ぶん〳〵。未曾有の恥を
見し事よ。婚姻の夜よ。人をかづきまして
由事あり。かゝる不吉の娘よ。家よ迎てふ〳〵ぞ。おもいまゝ
とらひて。つまおたゝきさせ生ず。志をも。おやの黒良。親子が
あうさ多をおりへだ。小松が。ふ〳〵ぞ。小松が。ふ〳〵ぞ。
縁者のむさびせんとよか〳〵ぞとく
小松が事をのひ出ざうそう。和ふ〳〵
歎わ〳〵ふ〳〵で。悪よ無りて生
帰さてふら生々る時。おそろ〳〵生音のふる雨借人からぢ行
〳〵ん知生ぎ。我生思ふやうふ生ありて
ふ男ひがけあく。悪のまゝよ安まりて
わふを見生ぎ。雲井あり。あふら生〳〵ふ事ふ生



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

来つるとぞ告げ雲井ゆく雁に今宵君を三保の浦へ送りつ

とあるを父母の傷ぜしとありし。語もつくさず志を遂げ家の娘ませんとて。

そうろうまま事ありおのまま日まわりうまれ。

足君の心のごとく三保の家もおろそかならず。

として小春を眷みおびただしく財宝をさしてぞ走りゆきける。

小松が身のうえをおぼしおきさいわいの多きぞかの三保が家も生涯

の富をあつめさせ母悦びて。一日白良はらにくるるまで一年もおくりぬ。

いまざ妻をむかえざる事不孝ありとて。残田が娘小松にめあづけ



の契りあさからず。たのをかさねまづ女子一

人孫のさえをもうでてかしづき清ぞある女をふくみ呼むかえて妾

を世ぎ呼むかえる。叶妾はあらんそして妻ある女白良を

一目見てあおおそろしや生ける鬼とぞ。

ざるまで身のかたち白々ましてほくほくともあをいろ

いろで鬼のごとくをせんやおそろしくくらひてく逃てく逃ぬ。

そのまま三人ぞうあくより妾を尋ねて呼むくるまでぐ。

みな白良が顔を見まだそうあきれ

あるく面目なくて今そこそこして妻をうて妾ちうもむうぐ。生ぐん

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

かぎり。ありのあるべくあらんとぞ心を定めていひ久。ある日白良
母よ向ひて云々。天かより羽衣を取りあり後一十日の
日数もや翌くありぬ明あぜ。三保の浦よ至りて天女の素
隆を待て。衣を返しあるべしとの
富よ。もちかくりあるを倫よ卅衣の
ありかを。あろうもの母。翌をかしさよ行て天女
を連ざやと。母子ともぐよ。夜の明
ぞ。出て残色つとぞ急ぎける。ひくり
見む目をけて見生ぞ。女二人か
とよもろ。ひぐろ蛍の



子のまぐさみ残あくりろ
女白良を招きて。おのさと雲井とも
残団の娘あく。君とのひあづけあ
親兄の詞よ従ぞ。終身を三保の家よせんとの
まるおろざしのくろ生ぞ。
妻。家とのあひて。夫婦の契りし
ふりて。おの生男女のまじりせん事を。
小松どのおろざしをるかあ
おとまかくを物よ。終身をまりせ



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

々と。我家ゐそ。むくゝやさ〳〵。別人よ縁をむすびてまゐらせ
去のこゝろのくだり小松まろび生く。白良が母の袖よさぐりてゐる
。くるゝ雲井がやせ〳〵おこのざゝく。我身一さぢみ道を守り
て。そふまぐく父母の仰せをそ忘きて。ひゝさゝら昔の髪うす
たゞ〳〵そのこゝ思ひさゞめて。今白良ゞそゝ。ちゝを
きりての給ふくちゝせんかさあり。ゐ母君のちかさいゝ
よ置給ひて。めのそゝろのはゝよ男のこゝろ
けまゝ家よ帰りてゐ。ちゝまでのそゝ
ゐゝ。袖を用ふうけてのくだ。母ゐ小松が手を取り。顔ゐすりく。



さそくうまゝ心のくも世ふあり〳〵世よ見ゞるしさ白
良をのゝふゐもあく。さゞより父おまゝ正〳〵一さぢよ道を
守アて。三保の家よ身をよせんと。思ひ定めゝる。感ざする母。
あまるゞ父ざゝみそ白良たゝゐ。おちゝをば。
つゝまゝをあゝゞ。今よりあゞくにまそひのさゐをも見て
とゞけてゝゞゝ涙をおゞゝて。よろこぶべ。小松をやめよゝを
泣よそ泣くる。おゞゝありく。白良母よ向ひく天人の降臨ゐで
かくおそきふゝとのゝそ。雲井さゝ〳〵母ふ
ゝ語りて。羽衣を天官よ返〳〵ちあくんゝあふ母子ゝのおゐて

未つくさざるそ。ゑんざいとあきさ事あり白良君ゐそ浴
おくく未のるゐやと宮ふりさのわざくるくまより起出くま
つるさざらのまぐさる事をせさてくらつだ。雲井ゐいたくく天くそ
不浄をきくひのふ事経文よまるくしいぶくや叶ぬ
のあるひくりて移除くのひ身上の垢を洗ひそくぎて身を
清らふあくて。むくのそで。天くのまま降近きみあくんくらふ
み。ゐよさあり。くのひて白良衣ぬぎて残よおりくる雲井紫衣
をかくげ。褌ひきゆひてくるゆみ浪みひくりて白き布とり出
て白良が頭より手足よりくるまぐ。ねんごろみまり浴ふ



時よ不思議や海ゑ五色の色をあ
事たくんよ湧あ。白良おゆひ
中よ香あり牛頭の旃檀と名づくと
あぐのくる香と海邊よ生ざくく外傳の書みゑ見えくるく
かくるをのふみやとのひつ。ひさまくる浴くてさきを飲めぐ
五體ゑ肉をかく骨を摺るさ地くて忽神魔あくたまりて
衆生倍を出ぬるさ地を雲井よくく浴ひ給くて手をとりて
岸ふのぎを。毋とふ松とひくくく白良を見さびあゑ思そぞや。
今まぐざくゑ黒くりく着くくちの雲ととだくり白く歩りて



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

のぐさの跡さへあくまでありて赤き髪も漆をぬりたるごとくにて
まがゞみもてそゝぐもぬれたるごとくにて丗よたゞしきさま
美男子とそなりけりあやしくもうるはしきものかなと
事そ大ぞうなるぐぜ白良衣うちきて着てくの艶らくを不審
子思ひてをづ〳〵海面をうかゞひ見るに我身をもえぬ
うつくしきさんの影うつりぬよろこぶことさんかぎりなし
呪を誦するくを後肉退き落て別は黒ある生ぎと經文
も見えこゝろかゝる事あやさまひとつなき天人の佐加護あり
と合掌礼拝してのさまをぢうして時は大空よりも



光の雲たなびきて松が根を落ぬと見えそしまかくて丗
五つの雲井はのごとくかの雲そうち
光明をを射ち無量希奇の相を現じ寶叙瓔珞の粧ひ
うるはしく微妙の色を放てかゝやく三保が陰徳をあらはして
福を轉じて福とあり醜を改めて美
まことに靈鷲をでよかくのおとゝ小松う婦徳よの常ありねを
永く僧尭の契りよ。たゞざまとのふ小松大地よりあふて
さてそ下女の雲井ありと思ひしそ天女の現形しものありて
そうかくとも則ち立ちづきありかくばけあさよゆくく





国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

江南司馬仮画

志ばらくあくるあしたの
下女雲井三保の浦わて
白良よあれ小松を
天女と現じ羽衣を
うけとりて
別れて天井
のぼる也

十七

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

手をあてせんこ。ふーまうびこく波ぬ。白良心肝よ銘じて尊く
おがそこ。かの羽衣を取つこさしげなる天女右の片手をのべ
てさきを取りのび行さを名あげこく守護ふつてこの絵ふ
ゑ。天楽よまぎこまこく。雲ふ潮こよ左のそでと見えそこづ
あーたふ山や富士の高嶺の霞みかくさこく見えそでありぬ
人こはあよ。あまこびふーをごこ。液おとこて手ひきあひつく
宿りこととふ帰りそる。さきよりふ松毋の孝養さする事おろち
あこぎ白良を敬ふおこよも大方あこぎ。常よ三人大宴をも
仰ぎこく天女の広徳をらひ生こく。たえぎ拝こそるとあん。



○名ぬのと

黒良親子ふ。獄屋のこととふきこと。あひこく。
百日あまりそこそるが。つこづこ思ひそるふ。我こ三保が恩よ皆き
盟約をきこ破りこく。不信不義をふるまつるを天の悪さ
ふやあらんと親子頭をよせこく。呼あひそる。その夜強風が
よ見そる。ふうさこそ。磨き野負とおぢ
ふ丹残田こひとり。たこぎこてあり
地さこぎこ。自ぬぎこく掻ふきこぎこ。
不思議こ思ひて見まこせこぎこ。
天の羽衣巻下



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

くらをんとさるる。飯ゆるまいて白き碁石あり。食よべきおおくはだ。頭をあげて見るだ。法師が袖よりとりたるく食をのくらの石の食よべくざる事をさきまくあくんさきま三保次が負を懐そ盤上よ金を置て汝よおくく時汝よろこびてよくざで来世大とあつて叶恩よ報ひぬでとをおぼえたりや盤上の金汝が飯をたさみけるを汝いろでその報ひをず甘きくり叶石そ。その時盤のかさそ置くる碁子あり。汝石と金との差別を知りや今黒白の犬と成をぬめるや盤上の恩よそむきけるぞとらふよ一身汗

求食

行きて見るをそ。妻あくび母黒きもとも母黒きたくく成下人ほくくるて。かあくげある声して吹てをりさてよう集りく泣あくるみたあとげある法師寿くくく。汝ら會飲丹眼くるきく。天命を恐るざくり故母かくる舞とらあふよう。因果の道理そ種をうるく苗を生さるがおとくよ三人とる。法師が袖よりとりたるく食をのくらの石の食よべくざる事をさきまくあくんさきま三保次が負を懐そ盤上よ金を置て汝よおくく時汝よろこびてよくざで来世大とあつて叶恩よ報ひぬでとをおぼえたりや盤上の金汝が飯をたさみけるを汝いろでその報ひをず甘きくり叶石そ。その時盤のかさそ置くる碁子あり。汝石と金との差別を知りや今黒白の犬と成をぬめるや盤上の恩よそむきけるぞとらふよ一身汗

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

ありて。答あづき說あり。法師如意を挙て。如是畜生発菩提心といふ。頭をあつらうみろうのさま思ひうめくくおそろしげ。着さめて見れば身を伏て獄屋乃内なりけり。こんごうしんごんを祈りつゝ月をつく。公の沙汰ありて悪者ども殺さるべきとも。賢者の政を以て。罪一等を減じて遠き国へうつさるゝ黒良親子ハ。同じ着を見つゝ。おのおのおそれて身どころのなきまで。罪を悔て。ことよりうつさるゝ。佛号を唱つゝ。未来の苦患をのがれんことを祈りつゝ。月をつく。公の沙汰ありて悪者ども殺さるべきとも。賢者の政を以て。罪一等を減じて遠き国へうつさるゝ黒良親子ハ。

おげうの獄を出てあとのおとづれ放ち帰さる。筏田親子ハ。命もあつて筏田夫婦ハ髪を剃りて。墨染の衣を着ぬ。黒良ハさきべきうりあつて。やまよりあらそうを白良様がうく呼てのくくうくはをとゝ。初生の時親よりあたへて。故なき兄弟のむさぼりさせまいつまでも。おのおのよりそひてをおのおのよりそひて見をくらんハ松も常をそなへつゝ。のうくを祝して。おのおの



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

よきをもらひてん。めでたく財をとりまとめて、やがてのちのちのあとをもとさせつ。黒良今ぞ白良が恩母まいらくそくらをしかりをさごまりとより別意あくがくひくよろづ白良が指揮を受てまめやまつらくる。笹田夫婦ふたくろうてさ伯せくく。跡意あく眷ひて夕をさごまま婦も感涙をあがしとあらくく世をそしくる。久をまごろ忠をつくせる者ありそつくゆるく今ぞ家のあつらひをもとめあまたくうつくしきを家造りをさ伯せくく。たのしくく老を養をまたくる



三保が家を海道第一の富家とありてく子孫安楽を栄えるとぞ。おまさまくく三保長者が陰徳の報。白良が信義の公。小松が貞操のさる所あがら。ひとくまを天人の加護よおわりと語りはてくるとぞん。

天羽衣下終



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

さるほどに。かの盗人ども。志摩つるうじ候ふ
お待ち。たのがらしは参らすさみまん迎さ世み
かくさるのるみどもあるこことおもまぜいそで
あのどそみらしゆえつきぞ。先びとのわつふ
おみそせんそ。何ぢきあるひきなる
そこそ。おのきさるみくさこそて
あまくびせそあ信くはくるよさらがくく
筆とうたまそうるが。四五日をそぐくて。

まみりそうみ。かくく二巻のるそしてき
あ。例のこわびくるさるもそ
そうさそとび言をめて。かいつでくそまで。
さすがよさそくくおうさそ。よそぐん
たうづくもあくぞ。さるをもの。あそう
がほよ。叶そくうそをけがわるそ。か信
るごくあま羽お行くものかくそうそ。
つけるおうがねをくそ。さくそうそ。

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

208
2
166

六樹園先生著
江南先生画
全部二本

文化五年戊辰正月發行

東都書肆

馬喰町二町目　西村與八
四谷内藤新宿下町　伊勢屋吉五郎
四谷塩町壹町目　佐久間屋藤四郎

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

国立国会図書館　　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用